

# 奥羽大学報



正門のヒマラヤ杉

## 目次

日本歯科医学教育学会総会および学術大会を開く	2
奥羽大学の理念・目的/奥羽大学歯学会の開催/奥羽大 now	3
SCRIPで研究成果を発表/全日本歯科学生総合体育大会/全学FD・SD研修会の開催	4
慶熙大学歯学部との国際交流/歯学部父兄会地域会/薬学部1年生が市内の病院や薬局を訪問	5
薬学部教育研修・講演会(第1回・第2回) / 「ダメ。ゼッタイ。」福島県普及運動地域団体キャンペーン/薬学部FD研修講演会/薬学部「英語圏言語文化研修」	6
交通安全講習会/キャリアガイダンス/薬学部保護者懇談会/大学案内テレビ番組放映/奥羽大学避難訓練/地域医療体験セミナー	7
EuroPerio9参加報告/国際学会参加報告/IADR発表報告	8
「情報融合に関する国際会議」報告/日本医療薬学会第69回公開シンポジウム「医療経済と薬剤師」開催報告/キャンパスの風景	9
共同研究の成果をWPC2018で発表/「先天異常学会受賞」報告	10
薬学部就職先一覧/歯科医師・薬剤師体験講座	11
オープンキャンパス/中学生上級学校訪問受入れ	12
大学院研究経過発表会の開催/海外教員による大学院特別研修セミナーの開催/研究倫理・研究不正防止に関する大学院特別研修セミナーの開催/研究倫理教育に関するワークショップへの参加/大学院夏期集中講義の開講	13
無垢サロン	14
本年度学長裁量経費の公募結果	15
奥羽大学 歯学部・薬学部 編入学試験概要	16
附属病院/「特別展示 戊辰150周年」について	17
歯学部研究紹介	18
薬学部研究紹介	19
自著を語る/同窓会だより/同窓生のひろば	20
人事	21
本学のアドミッションポリシー(入学者受入れの方針)	22

## 日本歯科医学教育学会総会および学術大会を開く

第37回日本歯科医学教育学会総会および学術大会は7月27日(金)・7月28日(土)、本学記念講堂大ホールおよび第3講義棟にて、大野敬歯学部長を大会長に「東日本大震災から7年!今後の歯科医学教育の方向性」をテーマに開催された。走り幅跳び日本記録保持者の池田久美子選手や400m日本記録保持者の丹野麻美選手らを世に送り出した川本和久先生(福島大学人間発達文化学類教授/同大学陸上競技部監督)が「勝利への伴走者」と題した特別講演を行った。シンポジウム1では「東日本大震災において歯学部がなすべきこと」をテーマに、東日本大震災という未曾有の災害に遭遇した岩手医科大学歯学部、東北大学大学院歯学研究科、奥羽大学歯学部から、3名のシンポジストがこれまでの取り組みを発表した。シンポジウム2では、「歯科医学教育者のためのワークショップ(富士研)～これまでとこれから～」をテーマに、教育能力開発委員会委員長の田口則宏先生(鹿児島大学)を座長に、富士研に実際に参加したシンポジスト3名からそれぞれ自施設における成果の活用の事例報告が行われた。シンポジウム3では「歯科におけるプロフェッショナル教育～その方略と展望～」をテーマに、倫理・プロフェッショナル教育委員会委員長の木尾哲朗先生(九州歯科大学)を座長に、これまで行ってきたプロフェッショナル教育に関する学会活動、方略と展望について3名のシンポジストから具体的な報告が行われた。

ポスターシンポジウムでは「多職種連携教育の導入・充実を目指して」をテーマに、片岡竜太先生(昭和大学)を座長に、29歯学部の多職種連携教育の現状と先進的な取り組みを7名のシンポジストが報告した。その他、グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン株式会社協賛の「デンチャーケアと義歯安定剤の最新知見」では黒木唯文先生(長崎大学病院)、サンスター株式会社協賛の「災害時の歯科保健医療-多職種連携の中での歯科の役割-」では中久木康一先生(東京医科歯科大学)、株式会社ツムラ協賛の「高齢社会に対する歯科医学教育の実践-漢方医学の果たす役割は?-」では柿木保明先生(九州歯科大学)による3つのランチョンセミナーも開催された。また、学術大会1日目午後の「学会の夕べ」では2015(平成27)年NHK全国学校音楽コンクールで金賞を受賞し、全国の頂点に立った福島県立郡山高等学校合唱部によるコーラスが披露された。その後のアサヒビール園福島本宮店で開催された懇親会では180名余りの会員が参加して懇親を深めた。

一般口演は36演題、ポスター発表96題、学生セッションポスター発表8題、国際学会研究発表奨励賞受賞ポスター発表2題、参加者はのべ600名と大盛況であった。最後に多くの団体、企業からの賛助・協賛、本学術大会の運営にご協力いただいた関係各位に感謝申し上げます。

(準備委員長 歯学部教授 瀬川 洋)



## 奥羽大学の理念・目的

### 理念

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する。

### 目的

奥羽大学は、教育基本法（昭和22年法律第25号）並びに学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部のその目的は、次の各号のとおりとする。

1. 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する
2. 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成する

## 奥羽大学歯学会の開催

第65回奥羽大学歯学会が6月16日(土)に附属病院棟5階臨床講義室で開催された。発表されたのは12演題で、その中に大学院生の学位口演が3題と歯学部5年生の発表が1題含まれていた。いずれの演題に対しても活発な質疑応答が行われた。当日は、歯学会の評議員会・総会も開催され、学会賞及び発表賞の受賞者が以下のように決定された。

学会賞：田中克典

発表賞：三宅茉麻・齋藤龍一・角田隆太



左から齋藤さん、三宅さん、田中さん、角田さん、大野学会長

## 奥羽大now

### 品川郡山市長が薬用植物園を視察

郡山市の品川萬里市長が6月28日(木)、本学の薬用植物園を視察に訪れた。清野和夫学長と薬学部の伊藤徳家准教授が案内した。伊藤准教授は全国の薬学部が持つ薬用植物園のなかでは有数の広さであること、栽培している薬用植物の種類や日本では希少な薬草があること、学生教育への活用法などについても説明した。郡山市では薬草栽培などにも興味があるとのこと、今後の産官学連携への発展が期待できそうだ。



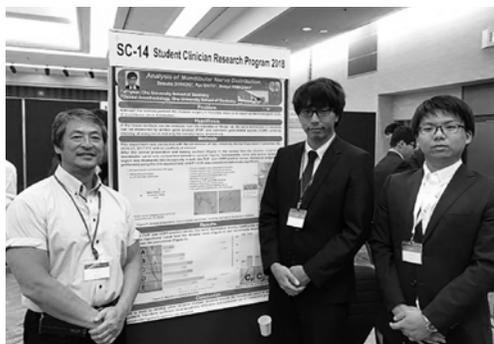
左から清野和夫学長、伊藤徳家准教授、品川萬里市長

## SCRPで研究成果を発表

年1回のSCRP(スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム)は8月23日(木)・24日(金)の2日間、歯科医師会館(東京都)において開催された。

SCRPは歯学部学生の研究発表のプログラムで、全国国公立歯科大学・歯学部29校全てから学生代表の発表が行われた。世界大会の日本予選を兼ねていることから、発表および質疑応答は全て英語が使われ、なおかつ発表および審査中は指導教員も共同演者も会場に入ることが出来ない厳格な状態で行われた。

本学歯学部からは、第4学年の篠木大輔さんが、Analysis of Mandibular Nerve Distribution(下顎骨における神経分布の解析)と題して発表した。



発表者の篠木大輔さん(写真中央)

## 全日本歯科学学生総合体育大会

冬期と夏期に全日本歯科学学生総合体育大会の第50回大会が神奈川歯科大学の総合主管で行われた。本学から冬期大会ではラグビーフットボール、夏期大会では準硬式野球、硬式庭球、ゴルフ、バスケットボール、空手道、アーチェリー、陸上競技、フットサルの計9部門に出場した。各部門で入賞することはできなかったが、準硬式野球では初戦突破、空手道では新人戦男子の部門で歯学部1年の片平隼人さんが優勝するなどの健闘を見せた。またフットサルの部門主管を担い、福島県須賀川市にて大会を開催したが、関係者の多大なご助力のおかげで、無事に大会を終えることができた。



部門主管を担ったフットサル部員と運営委員一同

## 全学FD・SD研修会の開催

本年度第2回全学FD・SD研修会が6月29日(金)、第3講義棟で、東京医科大学医学教育推進センター長の三苫博教授を講師として開催された。演題は「国家試験を大学教育に生かすには」で、国家試験問題を積極的に教材として活用することの意義について詳しい説明があった。歯科医師国家試験及び薬剤師国家試験の合格率向上を目指している本学にとって極めて有益な研修会であり、フロアーから多くの質問が寄せられた。

第3回は8月31日(金)、第3講義棟で開催された。講師は経済産業省安全保障貿易管理課の田守光洋氏。演題は「安全保障貿易管理と大学・研究機関における機微技術管理について」であった。

テロリストや懸念のある国に対して大量破壊兵器の開発や兵器の過剰蓄積を行わせないために、大学などの研究機関がとるべき貿易管理について、説明があった。



三苫博教授

## 慶熙大学歯学部との国際交流

7月30日(月)から8月5日(日)までの1週間、本学歯学部は姉妹校である韓国ソウル市の慶熙大学 (Kyung Hee University) 歯学部を訪れ、国際交流を行った。今年度は、歯学部4年生と5年生の学生7名および引率教員2名が参加した。奥羽大学歓迎の横断幕が飾られた慶熙大学歯学部附属病院にて歯学部長のKwon教授、国際交流担当のPae教授をはじめとする皆様の厚い歓迎を受けた。歯学部附属病院の各診療科や広大なキャンパス内にある平和の殿堂を見学した。平和の殿堂は、人気アーティストのコンサートや授与式、映画祭などの文化行事が行われることでも有名な総合文化公演施設であった。



本学学生は韓国語で挨拶し、自分自身で作成したスライドを用いて英語で自己紹介をした。また、川合教授と私はGangdong病院にて特別講演の機会をいただき、学術的な国際交流も行うことができた。Gangdong病院では、Leesungbok教授をはじめ先生方に優しく手厚いおもてなしを受けた。参加者全員が学生と教員との友好関係を深め、国際交流が実施された。今後も国際交流を通じて本学と慶熙大学との絆をさらに深めていきたい。

(国際交流担当、成長発育歯学講座歯科矯正学分野 講師 竜 立雄)

## 歯学部父兄会地域会

7月1日(日)東京の大森東急REIホテルで、7月8日(日)大阪のハートンホテル北梅田で平成30年度歯学部地域会が開催された。

総会では、6月に開催された父兄会総会の報告や、学生生活に関する現況報告が行われた。

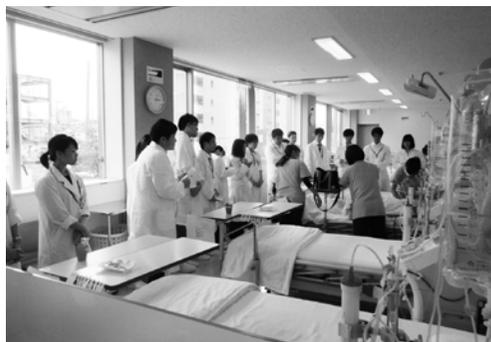
昼食懇親会では各学年が和やかな雰囲気の中、情報交換が行われた。

その後の個別面談では学年主任と保護者が学習指導や学校生活について活発に意見交換がされ、有意義な時間であった。



## 薬学部1年生が市内の病院や薬局を訪問

6月18日(月)、25日(月)の両日、1年次学生早期臨床体験の一環として、郡山市内の病院及び薬局訪問を実施した。延べ39施設の薬局と10施設の病院からご協力を受け、日進月歩の医療現場において多様性の増す薬剤師業務の実際に触れる機会が得られた。今回の主な目的は、その体験から薬剤師業務の重要性を認識し、将来どのような薬剤師になりたいかを考え、これからの勉学へのモチベーション向上につなげることにある。学生たちは、これから6年間の薬学学修への意欲もますます高まったようだ。



## 薬学部教育研修・講演会(第1回・第2回)

6月27日(水)、第3講義棟で第1回教育研修・講演会として、帝京大学特任教授・筑波大学理事浅島誠先生による「生命科学の現状と課題」と題する講演会が行われた。最近の生命科学の進歩は、20世紀後半から21世紀にかけて著しい発展を遂げている。生殖医療、ゲノム情報、再生医療などの生命科学はもの凄い勢いで変化しており、その結果、現代社会を変えつつある。生命科学の現状と課題について大変分かり易く解説された。

第2回は8月29日(水)、第3講義棟で秋田大学医学部教授・附属病院薬剤部長三浦昌朋先生が「分子標的抗がん剤の個別化治療戦略の確立と臨床応用」と題して、効果的な抗がん剤を選択する戦略とは何かについて講演された。先生の日常での臨床研究から、抗がん剤の血中濃度を測定し、血中濃度から個々の患者の投与量を調整する個別化を開発した経緯について講演された。

(薬学部教授 教育研修・講演会委員長 井上忠夫)



写真は浅島先生

## 平成30年度「ダメ。ゼッタイ。」 福島県普及運動地域団体キャンペーン

毎年10月～11月に全国各地で「薬物乱用防止キャンペーン」が行なわれているが、それに先立って6月28日(水)午後4時より、ザ・モール郡山において、「ダメ。ゼッタイ。」福島県普及運動地域団体キャンペーンが開催された。主催者は福島県、厚労省で、この機会にと熱心な関係者80名以上が集まった。その中にヤングボランティア団体として、わが奥羽大学2年生も8名参加した。「ダメ。ゼッタイ。」をスローガンに薬物乱用防止に関する理解と認識を高めるため、奥羽大生は他校の学生ボランティアとともに啓発資材を配り、募金への協力をお願いした。

## 薬学部FD研修講演会

本年度第1回薬学部FD研修講演会が7月4日(水)、第3講義棟で開催された。今回は、本学薬学部の伊藤鍛教授により、「新実務実習の概要について」と題した講演が行われた。来年度より開始される改訂薬学教育モデルコア・カリキュラムに準拠した病院・薬局実務実習について、実習期間、病院と薬局の連携、重点8疾患の導入、ルーブリック評価の導入など主な改訂点について詳しい説明があった。

第2回薬学部FD研修講演会は9月12日(水)、薬学部棟7階会議室で開催された。今回は、昨年度および本年度に採用された7名の新任教員を対象に、昨年度に制定された本学部3ポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)について、学部長、学生部長およびFD委員長により周知が行われた。3ポリシー制定の経緯、ディプロマ・ポリシーと実際のカリキュラムの関連、入試種別のアドミッション・ポリシーなどについて説明があり、これらポリシーを学部全体で共通理解し、連携して取り組むことの重要性を確認した。

## 薬学部「英語圏言語文化研修」

9月5日(水)から7日(金)まで、福島県岩瀬郡天栄村のプリティッシュヒルズで「英語圏言語文化研修」が開講された。この科目は薬学部の外国語選択科目のひとつで、英語ネイティブスピーカーによる指導の下、英語運用能力を向上させ、英国の歴史文化への理解を深めることを目的としている。本年度は1年生15名が受講した。本場英国さながらの雰囲気を楽しみながら、多彩な内容の授業を受けて充実した研修となった。



## 交通安全講習会

7月2日(月)、記念講堂において、平成30年度交通安全講習会が開催された。

第一線の現場に携わる郡山北警察署交通課係官の講話を伺った後、スマートフォンを操作しながらの自動車運転の事故防止啓発DVDを鑑賞した。受講者は日常の事と簡単に考えている自動車運転に対して真摯に向き合う事の必要性を改めて認識し、安全意識の高揚がなされた講習会となった。

## キャリアガイダンス

7月25日(水)、薬学棟で薬学部5年生に対する今年度2回目となるキャリアガイダンスが実施された。今年度の就職活動のスケジュール、志望業界による採用日程の相違点、自己分析に基づく進路分析の重要性などを、(株)マイナビの講師による講演によって理解を深めた。実務実習に真剣に取り組み自己研鑽を重ねる事により自ずと自分の適性が見えて来ると講師よりエールが送られた。

## 薬学部保護者懇談会

8月4日(土)、薬学部4年生及び6年生の保護者懇談会が郡山ビューホテルにおいて開催された。6年生は25名、4年生は24名の保護者が参加した。まず、個別懇談会では、保護者と学生の配属研究室教員との間で成績、就職などについて話し合いが行われた。続いて、それぞれの学年に分かれて、学年主任(4年：西屋禎教授、6年：佐藤栄作教授)より教育の現況説明があり、その後の懇親会の席で、教員と保護者が学生の勉学状況等について話し合った。

6学年懇談会では、今年度のスケジュール、卒業試験への取り組みや国家試験合格に向けての対策について説明があった。並行して、4年生では特にCBT受験の説明に多くの時間が割かれ、CBT合格に向けた取り組みについて紹介するとともに、実力試験や模擬試験の成績を例年と比較して示した。

最後に、教員と保護者との懇親会が開かれ、さらに熱心な情報交換が行われた。また新任教員の自己紹介がなされ、和やかな雰囲気の中、盛会裏のうちを終了した。

## 大学案内テレビ番組放映

福島県内在住の進学を目指す中高生や保護者を視聴対象として、本学の紹介特別番組が制作されテレビ放映された。

番組動画は大学ホームページの「動画ライブラリー」ページに掲載している。

〈番組〉 県内私立大学案内

「夢に向かって…決めた時がスタートだ！」

〈放映日〉 平成30年7月28日(土) 午後4時

## 奥羽大学避難訓練

近年、異常気象のせいか、日本列島は猛暑、豪雨、台風の脅威に晒されることが多くなった。そのことも念頭に、歯学部(1~4年)では9月3日(月)に、薬学部(1~4年、6年)では9月10日(月)に、避難訓練が実施された。今回の訓練では、授業中に大地震が発生したと想定し、学年主任(歯学部)や科目担当教員(薬学部)の指示の下、地震が収まるまでの安全な対処法である「シェイクアウト」を行った後、それぞれの教室から避難所までの経路を辿り、避難した。なお、薬学部5年生は実務実習中であったため、実習終了後の10月29日(月)に実施する予定である。

## 地域医療体験セミナー

8月3日(金)、平成30年度 医療人を志す子どもの夢応援事業「地域医療体験セミナー」が実施された。

体験セミナーは福島県教育委員会の主催で、本学の「歯科医師および薬剤師の職業体験プログラム」に参加した14名の高校1年生は、医療現場での体験に将来への夢を膨らませていた。

後期の同セミナーは平成30年11月16日(金)に実施の予定である。



## EuroPerio9参加報告

アムステルダムで6月20日(水)から23日(土)にEuroPerio9が開催され、歯周病関連の研究者および臨床家が約1万人参加した。本学歯学部からは歯周病学分野の3名が参加し、ポスター発表を行った。インプラント周囲炎の疫学研究、セメント質剥離の病態研究および共同研究者と行っているインプラント周囲炎の進行様態について人工知能を応用して解析する研究である。また、欧米の最新の歯周治療を拝聴し、我々の治療内容が世界標準であることを再確認した。

(歯学部 歯科保存学講座 教授 高橋慶壮)



写真左が高橋教授

## 国際学会参加報告

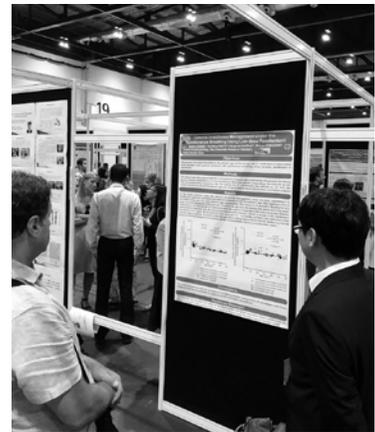
歯科学関係では最も大きな国際学会の一つである2018年の国際歯科研究学会 (96th IADR General Session & Exhibition) が、7月25日(水)から28日(土)、ロンドンにおいて開催された。会場は、ロンドンオリンピック会場近くの大きな国際会議場で、世界中から多くの参加者が集まった。本学の歯科麻酔学分野からは、小汲大二郎助教と、専攻生の内藤義久先生が発表した。

「低濃度レミフェentanilによる自発呼吸下の全身麻酔管理」

小汲大二郎 ほか

「日本における開業歯科医院での全身麻酔管理の統計」

内藤義久 ほか

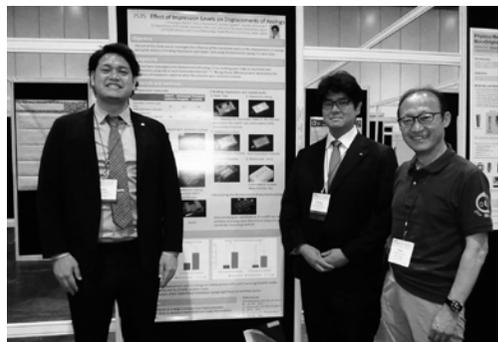


## IADR発表報告

英国ロンドンにあるExCeL Londonで開催された第96回IADR (国際歯科研究学会、7月25日(水)～28日(土))にて、当講座の山森徹雄教授と金子良平助教の3名で演題名「Effect of Impression Levels on Displacements of Analogs」のポスター発表をいたしました。

会場は、山手線のひと駅分ほどの長さがあるとても大きな会場でした。基礎系、臨床系の歯科医学に関する様々な分野の口演発表、ポスター発表、テーブルクリニックなどがあり1日約1000題以上の演題で、どの演題を見に行こうかと迷うほど大きな学会でした。私は大会3日目、27日(金)のポスター発表でしたので質問対応を学ぶため、事前にポスター発表の演者に質問してみました。これによって討論の流れをつかむことができました。国際学会に出席することは初めてであり緊張しておりましたが、事前の準備と心強いメンバーのバックアップにより安心して発表できました。今回の経験を基に、国際学会での発表に再度チャレンジしたいと考えています。

(歯学部 歯科補綴学講座 助教 池田敏和)



写真左から金子助教、池田助教、山森教授

## 「情報融合に関する国際会議」報告

7月10日(火)から13日(金)にかけて英国ケンブリッジ大学工学部で開催された情報融合に関する国際会議 (FUSION2018) で、「最適近似理論と圧縮センシングを融合した複数コイルを用いるパラレルMRI画像再構成法」の発表をした。

本発表では、魔法の数式と言われNHKで特集番組も放送された圧縮センシングに、私が本学で10年以上にわたり研究してきた最適近似理論を融合すると、さらに高画質のMRI画像を再構成できる事の数学的証明と、25%以上も画質改善した実験結果を紹介した。

(薬学部 講師 木田雄一)



## 日本医療薬学会第69回公開シンポジウム「医療経済と薬剤師」開催報告

8月11日(土)、郡山駅前ビッグアイ市民交流プラザにおいて日本医療薬学会第69回公開シンポジウムを開催した。テーマ「医療経済と薬剤師」。

基調講演として東京大学大学院薬学系研究科の五十嵐中先生、シンポジウムとして、就実大学薬学部の田坂祐一先生、東邦大学医療センター大森病院薬剤部の山西由里子先生、山形大学医学部附属病院薬剤部の志田敏宏先生による研究成果を共有させていただいた。

薬剤師による薬剤経済研究が増え、費用対効果の高い薬物治療を提案できるエビデンスが構築されることを願っている。

(薬学部 医療薬学分野 教授 中川直人)



## キャンパスの 風景

## ヒマラヤ杉

翼をたけだけしく広げたようなヒマラヤ杉。「郡山富田駅」のホームからもその直立した姿は見られ、インパクトのある「奥羽大学の森」を印象づけています。

ヒマラヤ杉はその名の通りヒマラヤが原産。常緑針葉樹で樹冠は円錐形。地面に水平な枝と垂れ下がった小枝が見事です。秋には卵のような実を結びます。

ところで、この写真はキャンパスのどこかわかりますか。大木の背後の建物は歯学部基礎医学研究棟、左側が動物実験研究施設です。杉は5階ある建物とほぼ同じくらいの高さです。8月4日(土)、5日(日)、クレーンを使って3本が伐採されました。左の写真が伐採前、右が後の風景です。伐採された3本はほとんど枯れ木状態になっていたのです。原因は土壌、水質、害虫などが考えられますが、はっきりしたことは分かりません。とうとうの運命でした。直径70cmある切り株の年輪から推定して、樹齢は45年くらい。本学開学以来、キャンパスを見続けてきた聖なる樹木でした。お疲れさまでしたと言ってあげたいような、これはセンチかな。(A)



伐採前



伐採後

### 共同研究の成果をWCP2018で発表

WCP2018Kyoto (第18回国際薬理学・臨床薬理学会議)は、4年に一度開催される臨床と基礎が合体した大きな国際会議で、7月1日(日)～6日(金)に京都で開催された。成果を世界にアピールできる格好の機会であり、2演題<sup>1,2)</sup>をポスター発表した。内容は、中楯奨<sup>1)</sup>講師による「AU-1aとAU-1bの発見」と、小池勇一<sup>2)</sup>教授との共同研究の「NMR-Pipetectorのヒトへの応用」でした。とくにAU-1はヒト由来の真菌(A. udagawae)の代謝産物で、抗血小板活性と抗癌活性(IC<sub>50</sub>: 3-5 $\mu$ M)を示し、分子標的薬の新規シードであると考えられた。また後者は、水道管の防錆に使用していた特殊な電磁波を発生するNMR-Pipetector装置を健康人の腕に10分間装着すると、リラックスの状態を示す心電図のRR間隔の延長とLF/HFの減少を示し、脳波においては $\alpha/\beta$ 値の上昇を示し、血中の酸化ストレスの低下を誘導し、血圧が約5 mmHg低下することを示した。本デバイスは血圧を下げる医療機器となり得ると考えられた。今後、新薬の開発と、リックス・抗酸化を誘導する新規降圧デバイスとして医療機器の開発が期待できる。(文責: 山本正雅)

1) Yamamoto N, Nakadate S et al: New enantiomeric chromone derivatives AU-1a and AU-1b from *Aspergillus udagawae* inhibit collagen-induced platelet activation by impairing GPVI-dependent signaling pathway.

2) Yamamoto N, Kamimeka N et al: Application of generating electromagnetic waves by NMR-Pipetector to human blood circulation induces relaxation and suppression of blood pressure.

(山本正雅、小池勇一、中楯 奨)



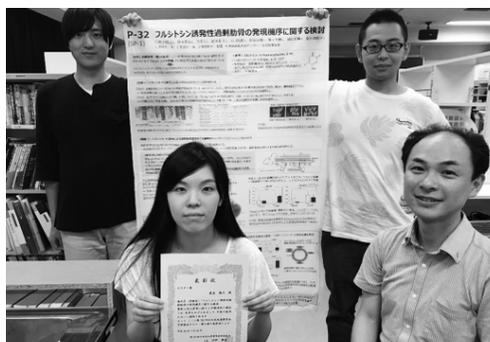
### 「先天異常学会受賞」報告

7月27日(金)から29日(日)に東京で開催された第58回日本先天異常学会学術集会にて、セレクトッドポスタープレゼンテーション賞を頂いた。本賞は一般演題の中から優れた演題について与えられ、演題名「フルシトシン誘発性過剰肋骨の発現機序に関する検討」が選考され、受賞者講演と授賞式の機会も頂けた。

本研究は医薬品や化学物質、農薬等を実施される毒性試験のうち、催奇形性試験の評価にあたって問題となる過剰肋骨について、その発現機序を実験的に提起し、毒性学的意義を考察し、評価に役立てることを目的とした研究である。今後も社会に有用性の高い研究を進めていく所存である。

本研究は本学の研究室所属学生と共に進め(写真)、内容の一部は6年生の鈴木愛美さんが特別実習発表会においても報告している。また、本研究は内閣府食品安全委員会の助成を受けたものであり、共同研究の諸先生方に深く感謝いたします。

(薬学部 講師 熊本隆之)



写真前左 鈴木愛美さん、右 熊本講師

**薬学部就職先一覧(平成30年3月卒)****【病院】**

一般財団法人温知会会津中央病院・福島県厚生農業協同組合連合会いわき市立総合磐城協立病院・置賜総合病院・公立藤田総合病院・財団法人慈山会医学研究所附属坪井病院・社会福祉法人恩賜財団済生会支部福島県済生会福島総合病院・医療法人辰星会耕記念病院・一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院・山形大学病院

**【薬局】**

株式会社アインホールディングス・葵調剤薬局・あさか調剤・株式会社アミック・イオンリテール株式会社・株式会社アクア(マリン調剤薬局)・有限会社杏仁薬局・クオール株式会社・株式会社ココカラファインヘルスケア・株式会社コスモファーマグループ・シップヘルスケアファーマシー東日本株式会社・すず薬局・セキ薬局・総合メディカル株式会社・武田薬局・日本調剤株式会社・株式会社パワーファーマシー・阪神調剤ホールディング株式会社・株式会社ファーマみらい・ファーマライズホールディングス株式会社・株式会社福島医療サービス・株式会社メディカフジ薬局・ほし薬局・みはる調剤・株式会社メディサポート・山口薬品株式会社・有限会社サミー・ラッキーバック株式会社

**【ドラッグストア】**

株式会社マツモトキヨシグループ

**【その他】**

福島県庁・山形市

**歯科医師・薬剤師体験講座**

8月8日(木)、小学生(5年生以上)・中学生のための職業体験講座が開催された。主に郡山市内の小・中学生が集まり、保護者と共に構内見学の後、歯科医師コース・薬剤師コースに分かれて実習体験を行なった。

将来は薬剤師になりたいという小学校児童や、歯科医師になるという中学校生徒も参加しており、意識の高さを感じた。

本学は、今後も職業体験講座を開設し、小・中学生のキャリア学習をサポートする予定だ。

**【体験講座内容】**

## ◇歯科医師コース

「人工歯を削ってむし歯の治療を体験しよう!」

## ◇薬剤師コース

「薬剤師の仕事ミニ講座」

「注射液を混ぜる体験をしよう」

## オープンキャンパス

7月14日(土)、8月9日(木)、8月10日(金)および9月1日(土)の4回、本学キャンパスにおいて、歯学部・薬学部オープンキャンパスを開催した。

各回歯学部、薬学部に分かれて学部の紹介、入試説明、ミニ講義、キャンパス見学、実習体験が催された。また、学食体験と併せて個別進学相談が行われ、本学の進学を希望する参加者から入学試験や学生生活に関する具体的な質疑が交わされ、熱心に相談する参加者の姿が見られた。



## ミニ講義・実習体験内容・担当スタッフ

## ■7月14日(土)

## ○歯学部

- ・ミニ講義「ステキな歯ならびと笑顔をつくる矯正歯科治療」  
竜 立雄 講師
- ・実習体験「歯科矯正学実習体験～歯を動かしてみよう!!～」  
同上

## ○薬学部

- ・ミニ講義「くすりの働き—薬理学への招待—」 西屋 禎 教授
- ・実習体験「実験で学ぼう～紅茶の主成分テアフラビンの科学的解明～」 竹元万壽美 教授 ほか

## ■8月9日(木)

## ○歯学部

- ・ミニ講義「レーザーとは?歯科治療での応用」 木村裕一 教授
- ・実習体験「歯をレーザー光で削ってみよう」 同上

## ○薬学部

- ・ミニ講義「がん治療最前線-がん患者を支えるがん専門薬剤師-」 井上忠夫 教授
- ・実習体験「薬剤学実習体験～湿布を作製してみよう～」  
渡邊哲也 講師 杉野雅浩 講師 ほか

## ■8月10日(金)

## ○歯学部

- ・ミニ講義「コンピューター支援インプラント治療」  
関根秀志 教授
- ・実習体験「コンピューターシミュレーションとインプラント体埋入手術」 同上

## ○薬学部

- ・ミニ講義「ミライの授業」 大島光宏 教授
- ・実習体験「漢方薬を作ってみよう」 伊藤徳家 教授

## ■9月1日(土)

## ○歯学部

- ・ミニ講義「全国最高水準の日帰り全身麻酔」 山崎信也 教授
- ・実習体験「一次救命処置」 同上

## ○薬学部

- ・ミニ講義「薬の相互作用」 中村郁子 教授
- ・実習体験「生物系薬学実習体験～免疫と身近な微生物～」  
山下俊之 教授 堀江 均 教授 ほか

## 中学生上級学校訪問受入れ

開催日	学校・団体等	内容	人数
平成30年7月10日(火)	郡山市立安積第二中学校	上級学校訪問	生徒4名、教員1名
平成30年7月10日(火)	郡山市立郡山第二中学校	上級学校訪問	生徒7名、教員1名
平成30年7月11日(水)	郡山市立郡山第五中学校	職場体験学習	生徒5名、教員1名
平成30年8月6日(月)	郡山サマーバスツアー(福島民報社主催)	大学見学	小学生・保護者22組
平成30年8月22日(水)	市内子育て支援団体	ふくしまの子どもたちの未来創造活動	生徒20名、保護者15名
平成30年9月4日(火)	双葉町立双葉中学校	上級学校訪問	生徒2名、教員2名
平成30年9月5日(水)	富岡町立富岡第一・第二中学校	上級学校訪問	生徒3名、教員4名

---

## 大学院研究経過発表会の開催

---

本年度の大学院研究経過発表会が例年同様8月の最終木曜日である30日に附属病院棟5階臨床講義室で開催され、11名の大学院生が発表を行った。この会は大学院生の学位研究の質的向上を目指して、学位取得予定の前年度にそれまでの研究成果を大学院生が発表するものである。今回も大学院生の発表に対して、大学院教員から実験結果の評価法や考察に追加すべき項目などの助言や意見が多数述べられ、有意義でアカデミックな研究経過発表会となった。



---

## 海外教員による 大学院特別研修セミナーの開催

---

本年度海外教員による大学院特別セミナーが7月4日(水)、中央棟で米国シガン大学歯学部歯科保存学講座の佐々木元准教授を講師として開催された。セミナー題名は「血清アミロイドA-TLR軸による根尖性歯周炎の制御」で、根尖性歯周炎の発症とその制御に関する先端的研究が紹介された。このような海外教員による先端的研究の紹介は、大学院生や若手教員のリサーチマインドを強く刺激するものであった。当日は、大学院教員・歯学部教員・大学院生の計44名が参加した。

---

## 研究倫理・研究不正防止に関する 大学院特別研修セミナーの開催

---

本年度第3回大学院特別研修セミナーが7月20日(金)、第3講義棟で神戸大学大学教育推進機構の近田政博教授を講師として開催された。セミナー題名は「大学院における研究指導上の課題とその改善策」で、大学院教育において重要な問題の一つである大学院生と指導教員のトラブルとその改善策に関するものであった。講演の中では参加者同士の議論も求められるなど、大変新鮮なセミナーで歯学部教員・薬学部教員・大学院生の計149名が参加した。

---

## 研究倫理教育に関する ワークショップへの参加

---

国立研究開発法人科学技術振興機構による「第3回JSTワークショップ公正な研究活動の推進—研究倫理教育の目標・内容・手法を考える—」が、9月4日(火)、東京の大手町ファーストスクエアカンファレンスで開催された。本学からは清浦有祐研究科長が参加した。今回のワークショップは、大学などの研究機関の研究倫理教育担当者を対象にしたもので、55名が参加した。グループディスカッションを中心に倫理教育の目標から具体的な教育手法までを考えた大変有意義なワークショップとなった。

---

## 大学院夏期集中講義の開催

---

大学院歯学研究科の夏期集中講義が例年同様、8月の水・木曜日に計8日間開講された。奥羽大学では社会人大学院生を受け入れており、42名の社会人が学位取得を目標に学んでいる。社会人大学院制度は、歯学研究に意欲を持つ社会人に研究の場を提供するために、開業医、あるいは勤務医を対象に開設されたが、現在は多くの本学教員も在籍している。社会人の実情に考慮し、社会人大学院生がより学びやすい環境を提供するために、大学院講義・セミナーは毎年8月の水・木曜日に「夏期集中講義」として、午前9時から午後4時30分まで4科目が開講されている。この集中講義を受講することで社会人大学院生は、歯科医学研究の現況を最先端の部分も含めて広く知ることができる。



## 情報伝達のおもしろ話 ～こうして情報は伝達された～

図書館長 安藤 勝

今やインターネット依存が拡大している。全国の中高生 7 人に 1 人はネット依存だと新聞は伝えている。スマホがなければ生活できない。それほどまでにスマホと日常生活は一体化してきている。筆者は久しぶりに東海道線に乗った。7 人掛け全員が画面を見ている。立っている老体に席を譲る気配はない。まさに情報狂想曲だ。情報という怪物が暴れ出している。本はどこへ行ったか。

ここでタイムスリップ。武田信玄と上杉謙信は長野市郊外の川中島で対決した。両雄の名勝負といわれたいわゆる「川中島合戦」である。永禄 4 年 (1561) のことだ。その時の情報は？ 後段に続く。

▼大阪の堂島といえば、ここでの米相場が全国に影響を及ぼした。極端に言えば、お米の国日本の台所を支配した場所である。その相場情報が京都まで 4 分、津まで 5 分、神戸まで 7 分、さらにいえば、和歌山まで 3 分、岡山まで 15 分、広島まで 40 分たらずで伝達されたという。江戸時代の話である。今日のような通信技術のない時代にだ。どういう仕組みになっていたのだろうか。柴田昭彦さんという学校の先生が綿密な現地調査によりその全貌を明らかにした (『旗振り山』ナカニシヤ出版 2006)。

▼仕組みは旗振りによるリレー伝達である。山の頂上で畳くらいの大旗を振り、その振り方や旗の色などで数字情報を隣の中継地点に伝える。望遠鏡を利用すれば 24km 遠方まで可能だったという。柴田さんは通称「旗振り山」とも「高旗山」ともいわれた西日本各地の情報基地を踏破して「旗振り通信」の全貌解明に挑んだ。江戸時代から大正 6、7 年まで続き、旗振り役は明治政府公認のれっきとした職業だったという。今では埋もれた歴史である。▼冒頭の続き。リレー伝達で史上よく知られた話が「川中島合戦」での狼煙 (のろし) のことだ。上杉謙信は妻女山に陣を張ったのに対し、武田信玄は海津城のノロシ山で狼煙 (烽火) をあげて甲州までの 150km をわずか 2 時間で援軍を求めたという。「狼煙は次々に、南方に向かって配せられている山々に於て揚げられて行った。五里ヶ嶽、二木ヶ峰、腰越、長久保、和田峠。遠く甲斐の国へ向って、火の柱は次々に受け継がれて山々の頂上に立てられた」。井上靖の『風林火山』は語っている。

▼大村益次郎は明治維新 10 傑の一人として知られている。戊辰戦争のとき長州藩の軍事指導者として活躍、近代日本の軍制改革を推進して、国民皆兵をとなえた。彼の銅像は靖国神社にあるが、あまり知られていない。▼大村益次郎こと若いときの村田蔵六は大阪にある緒方洪庵の適塾で蘭医学を学んでいた。あるとき洪庵から「岡山へ行ってくれ」と頼まれる。用件は新着の蘭医書を岡山にいる洪庵の弟子である石井宗謙が手にいれたのでそれを写してきてくれ、というもの。新着の書物とはシーボルトがヨーロッパからオランダの定期便に託して日本に送ってきた梅毒に関する医書のこと。蔵六はこの書物を写すため、大阪から岡山まで徒歩で出張。途中、シーボルトが日本に残した娘イネに出会うという胸ときめく場面もあり、ストーリーの展開がおもしろい。本を写すために命がけで旅する気迫と情熱が伝わってくる。司馬遼太郎の『花神』という歴史小説に書かれてある話だ。▼似たような話だが、勝海舟も人から借りたオランダ語の辞書を二部写して 1 部は自分、1 部は人に売って生活の足しにしたという。ちなみに彼の訳したオランダ詩「思ひやつれし君」は日本近代詩のさきがけとなった。

▼情報の複製技術が発達して近代が生まれた。近代は「個」を生み出した。「個」と「個」をつなぐものは何か。そこが問題だ。たまにはアナログが懐かしい。

## 本年度学長裁量経費の公募結果

奥羽大学における教育改革と教育研究に対して財政的に支援することを目的に学長裁量経費採択課題を7月31日(火)申請締切で公募した。

8月27日(月)と30日(木)に公開ヒアリングを実施し、評価委員会で審査した結果、次の8課題を採択した。

なお、公募内容は

- 1) 教育改革・改善プロジェクト経費  
1件の配分額の上限 50万円 総額100万円
- 2) 教育研究プロジェクト経費  
1件の配分額の上限 50万円 総額200万円

### 教育改革・改善プロジェクト経費

1. 奥羽大学歯学部学生の読解力と歯学部教育科目成績との関連を調査する  
○伊東博司<sup>1</sup>、菊地尚志<sup>2</sup>、宇佐美晶信<sup>3</sup>、遊佐淳子<sup>1</sup>、櫻井裕子<sup>1</sup>、本多真史<sup>4</sup>、芹川雅光<sup>3</sup>、佐藤知哉<sup>3</sup> ( <sup>1</sup>歯学部口腔病態解析制御学講座口腔病理学分野、<sup>2</sup>歯学部生体材料学講座物理学分野、<sup>3</sup>歯学部生体構造学講座口腔解剖学分野、<sup>4</sup>歯学部日本語学)
2. 学習習慣獲得のための学生支援システムの構築  
○宇佐美晶信<sup>1</sup>、安部仁晴<sup>2</sup>、石田善紀<sup>3</sup>、小林美智代<sup>4</sup>、櫻井裕子<sup>5</sup>、芹川雅光<sup>1</sup>、長岡正博<sup>6</sup>、古山 昭<sup>7</sup> ( <sup>1</sup>歯学部生体構造学講座口腔解剖学分野、<sup>2</sup>生体構造学講座口腔組織学分野、<sup>3</sup>生体材料学講座歯科理工学分野、<sup>4</sup>口腔病態解析制御学講座口腔感染免疫学分野、<sup>5</sup>口腔病態解析制御学講座口腔病理学分野、<sup>6</sup>口腔病態解析制御学講座歯科薬理学分野、<sup>7</sup>口腔機能分子生物学講座口腔生理学分野)
3. レーザー積層造形法による部分床義歯製作に関する情報収集と精度調査  
○松本知生、山森徹雄、野中康平、池田敏和、金子良平 (歯学部歯科補綴学講座有床義歯補綴学分野)

### 教育研究プロジェクト経費

1. 機能性高分子薄膜を用いたインスリン自動放出制御システムの構築  
○柏木良友、鈴木康裕、小野哲也、吉田健太郎、大楽武範 (薬学部物理化学分野)
2. ミネラル配合口腔保湿剤による高齢者の根面齲蝕予防に関する基礎的研究  
○南 健太郎 (歯学部口腔衛生学講座口腔衛生学分野)
3. 甘み刺激が口腔がん転移に及ぼす影響  
○鈴木厚子<sup>1</sup>、金子良平<sup>2</sup>、角田隆太<sup>3</sup>、前田豊信<sup>1</sup>、加藤靖正<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>歯学部口腔機能分子生物学講座口腔生化学分野、<sup>2</sup>奥羽大学大学院口腔機能学領域口腔機能回復学専攻、<sup>3</sup>歯学部口腔外科学講座口腔外科学分野)
4. ビスフォスフォネートによる新たな心血管疾患治療法の開発  
○玉井利代子<sup>1</sup>、山家尚仁<sup>2</sup>、小林美智代<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>歯学部口腔病態解析制御学講座口腔感染免疫学分野、<sup>2</sup>奥羽大学大学院口腔病態学領域口腔感染症学専攻)
5. インプラント埋入をより安全におこなうための術前診断精度の向上を目的とした歯科用コーンビームCT画像の三次元的解析  
○酒井悠輔<sup>1</sup>、船川竜生<sup>1</sup>、宇佐美晶信<sup>2</sup>、関根秀志<sup>1,3</sup> ( <sup>1</sup>奥羽大学大学院口腔健康科学領域咬合機能修復学専攻、<sup>2</sup>歯学部生体構造学講座口腔解剖学分野、<sup>3</sup>歯学部歯科補綴学講座口腔インプラント学分野、)

## 平成31年度 奥羽大学 歯学部・薬学部 編入学試験概要

## ■編入学募集人員

学部・学科	編入学年	募集人員
歯学部 歯学科	2年次	若干名
	3・4年次	
薬学部 薬学科	2年次	

## ■出願資格

学部・学科	編入学年	出願資格
歯学部 歯学科 薬学部 薬学科	2年次	(1) 大学を卒業又は2019年3月卒業見込みの者 (2) 短期大学を卒業又は2019年3月卒業見込みの者 (3) 高等専門学校を卒業又は2019年3月卒業見込みの者 (4) 医療系専修学校専門課程を修了した者又は2019年3月修了見込みの者 (5) 大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者 (6) 歯学部又は薬学部並びに医学部に1年以上在学し、第1学年の所定の単位を修得した者
歯学部 歯学科	3・4年次	(1) 歯科大学又は薬学部に3年以上在学し、当該学年所定の単位を修得した者 ※ 出願受付時に、前大学の履修科目単位を審査のうえ3年次・4年次編入学試験区分を指定する

## ■試験日程

入試区分	編入学年	日 程・試験科目		
		出願期間	試験日	合格者発表
歯学部 歯学科 薬学部 薬学科	2年次	H30.9.3(月)～ H31.3.20(水)	随 時	試験後3日以内
歯学部 歯学科	3・4年次	一期	H31.2.4(月)～ H31.2.22(金)	H31.2.25(月) H31.2.27(水)
		二期	H31.2.28(木)～ H31.3.19(火)	H31.3.25(月) H31.3.26(火)

## ■選考 ※出願書類、試験及び面接試験の結果を総合して判定する

入試区分	編入学年	科目	内容
歯学部 歯学科 薬学部 薬学科	2年次	小論文	120分、1,200字
		面 接	個人面接
歯学部 歯学科	3・4年次	学力検査	多肢選択問題 100問 本学歯学部カリキュラムに基づく履修科目から出題する
		面 接	個人面接

奥羽大学 〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1

http://www.ohu-u.ac.jp E-mail info@ohu-u.ac.jp

歯学部学事部入試係 TEL024-932-9005・9055(直通) FAX024-933-7372

薬学部学事部入試係 TEL024-932-8995・9006(直通) FAX024-933-7372

## 附属病院

### 第1回研修歯科医派遣式

6月25日(月)、地域医療短期研修プログラム前半組5名と地域医療長期研修プログラムを選択した3名の派遣式が臨床講義室行われた。派遣先は福島県4名、秋田県1名、東京都2名、京都府1名であり、研修歯科医はそれぞれ4ヶ月と8ヶ月の研修を行うことになる。

式では研修歯科医が呼名され、杉田病院長からの訓示、プログラムの特徴と修了認定、研修心得の伝達後、それぞれの研修歯科医から力強く決意表明があり、出席者からの激励の拍手に見送られた。



### 休日・夜間時の自衛消防訓練

9月5日(水)附属病院において、宿直および日直担当歯科医師、看護師、事務職員など33名が参加し休日・夜間時の自衛消防訓練が行われた。地震および火災発生時の通報連絡の手順、患者の避難誘導についての再確認、4人および6人体制による担架搬送訓練を実施した。参加者は、万一来に備え真剣な表情で訓練に臨んでいた。



### 臨床教育力養成研修会

本年度の歯学部臨床教育力養成ワークショップは8月4日(土)、若手教員8名の参加により行われた。平成23年度から8回目の開催で8名1班での構成により、初めて午前だけの内容とした。

ディレクターの杉田俊博病院長、山森徹雄教授のほか、スーパーバイザーとして東京歯科大学から杉戸博記准教授をお招きし、チーフタスクフォースの清野晃孝准教授の主導のもと、臨床実習における基本的臨床技能の中で予防・指導系を選択し、カリキュラムプランニングにおいて、学習目標をグループワークにてプロダクトを作成、発表するなど若手教員に有意義な研修であった。



### 「特別展示 戊辰150周年」について

今年(2018年)は会津戦争終結から150周年を迎える節目の年である。そこで、奥羽大学図書館では、「特別展示 戊辰150周年」と題し、特別コーナーを設置した。同戦争に関する蔵書を集めるとともに、年表なども併せて展示している。ぜひ、この節目の年に白虎隊の雄姿や会津の魂に、思いを馳せてみてはいかがだろうか。



**歯学部研究紹介****東日本大震災における震災関連死軽減に向けた歯科からのアプローチ**

歯学部口腔衛生学講座 教授 瀬川 洋

2011(平成23)年3月11日に三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)の地震動と津波の影響により、東京電力福島第一原子力発電所では炉心溶融(メルトダウン)など一連の放射性物質の放出を伴った原子力事故が発生した。福島県民200万人のうち、2012(平成24)年5月のピーク時には164,865人が県内外に避難していたが、2016(平成28)年1月に初めて10万人を下回り99,991人となり、事故から7年が経過した2018(平成30)年6月14日現在、33,622人が避難生活を余儀なくされている。福島県の震災関連死認定者数は2015(平成27)年12月25日に2,000人を超え、2016(平成28)年3月31日現在、2,038人で、市町村別では南相馬市が489人と最も多く、浪江町が384人、富岡町が339人など帰宅困難区域からの避難者に多い状況にある。

これまで福島県内の仮設住宅では居住する自治会による見回りや保健師による巡回保健指導や健康支援活動が行われてきたが、震災関連死の増加に歯止めが掛かっていない。被災者に対するメンタルヘルスケア、いわゆる「こころのケア」は一段と必要性を増している。

福島県は2015(平成27)年度、仮設住宅などで避難者の相談に応じる生活支援相談員を現行の約200人から400人に倍増するとともに避難者のニーズや課題を集約し、解決策を提案する総括・主任相談員を5人登用した。このような中、口腔ケア推進プログラムを作成して、福島県歯科医師会を実施主体として、帰宅困難区域の仮設住宅入居者を対象に被災地口腔ケア推進事業を2013(平成25)年から継続実施していて、2014(平成26)年度からは総務省福島行政事務所と連携して「歯の健康相談&行政困りごと相談」として実施した。総務省は避難生活の長期化などによるストレスが原因で唾液の分泌量が減り、口腔内が乾燥している被災者が増加しているとの見解を示している。乾式臨床化学分析装置によるストレスの状況は経年的に低くなってきているが、口腔水分計による口腔乾燥度の状況は依然高い状況にある。復興公営住宅の建設が進む中、仮設住宅の供与は1年ごとに延長が決まり、これまで3度延長されてきた。避難指示の解除の見通しや復興公営住宅の整備、自宅の建築・修繕等住居の確保が困難な一部の避難指示区域は2018(平成30)年3月末まで延長となったが、その他の市町村・区域は2017平成29年3月末で供与期間を終了することになった。供与延長を避けられない入居者の中には家賃が無料であった仮設住宅から復興住宅に移ったことによる経済的な問題や団地形態の復興公営住宅の居住に不安を抱えるなど新たなストレスの要因も生じている。また、復興支援は加速化しているが、未だに原発事故による風評被害の払拭は困難な状況にある。

このようなことから震災関連死の慧眼に向けた継続的な歯科からのアプローチが望まれている。



**薬学部研究紹介**

**がん薬物治療を決定するためのコンパニオン診断を用いた臨床判断分析と治療戦略の研究**  
 薬学部薬理学分野がん薬物治療学 教授 井上忠夫

近年、がんの原因となる遺伝子解明の研究が進み、関与する遺伝子を治療標的とすることで、治療効果の期待できる患者を事前に特定し、治療成績を向上させるという“プレジジョン・メディシン”すなわち患者の個人レベルで最適な治療方法を分析・選択し、がん細胞を遺伝子レベルで解析し、適切な薬のみを投与し治療を行うことが開発された。特に、ドライバー遺伝子（がん遺伝子・がん抑制遺伝子といった、がんの発生・進展において直接的に重要な役割を果たす遺伝子）変異により引き起こされるタイプの肺がん、乳がん、卵巣がんの治療法は大きく変化してきた。例えばBRAF V600E遺伝子変異陽性の進行非小細胞肺がんの治療における「ダブラフェニブ」と「トラメチニブ」の併用療法は、米国では2017年6月に、欧州では2017年4月、日本では2018年3月に承認された。一方、通常の臨床検査とは別にコンパニオン診断（Companion diagnostics; CoDxもしくはCDx）の同時開発も進み、薬の効果や副作用を投薬前に予測し、薬に対する患者個人の反応性を治療前に診断することで、オーダーメイド医療をより確実に進める事が可能となった。当研究室では、非小細胞肺がん、乳がん、卵巣がんの治療薬として、近年注目されている免疫チェックポイント阻害薬及び分子標的薬と従来の殺細胞性抗がん剤の臨床効果と経済効果を統合した臨床判断分析を用いて、コンパニオン診断を行う事での臨床効果のエビデンスと医療費のエビデンスを統合した臨床判断分析により社会に及ぼす影響と治療戦略について検討を行っている。図1と図2は、非小細胞肺がんのBRAF V600E遺伝子変異陽性患者におけるコンパニオン診断の影響を臨床判断分析の手法であるマルコフモデルにより解析したものである。

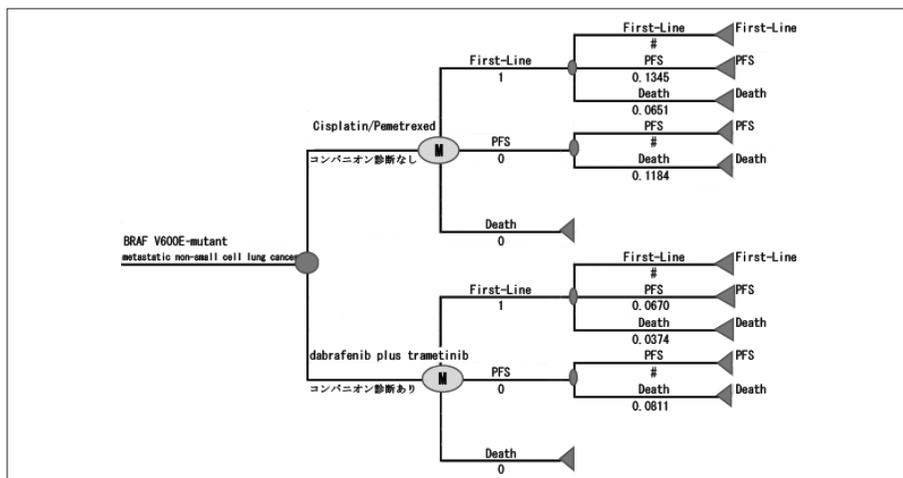


図1. 「ダブラフェニブ」と「トラメチニブ」併用療法における判断

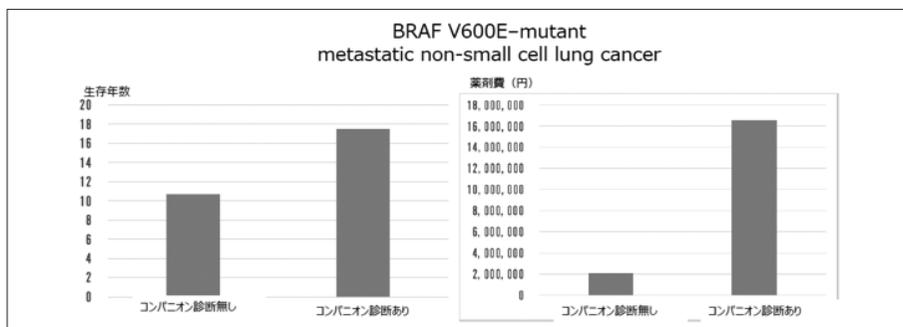


図2. コンパニオン診断の臨床効果と費用の影響

## 自著を語る

## 『インテグレートッドシリーズ 薬理学』

MARK KESTER・KENT E. VRANA・SADEQ A. QURAIISHI・KELLY D. KARPA 著

中畑則道・石井邦明・吉田 真・守屋孝洋 訳

東京化学同人 2010年

本書はElsevier インテグレートッドシリーズ「薬理学」の和訳版である。薬理学は基礎医学の中に分類され、「薬物」がどのような仕組みで効果をあらわすのかを理解する学問である。一方、薬剤師にとって、薬物の作用メカニズムだけではなく、医薬品の副作用や相互作用など作用機序が必ずしも明確になっていない臨床現場の情報も極めて重要である。本書の原著版の各章は、基礎科学者だけではなく、臨床医や薬剤師などの複数の薬理学者によって共同執筆されており、薬物の作用機序だけではなく、臨床での薬物治療の注意点などを複合的に学ぶことができるように構成されている。是非、本書を手に取り、統合的な薬理学の理解に活用してほしい。

(薬学部機能形態学分野 教授 守屋孝洋)



## 同窓会だより



## 筒井 章

(福島県支部副支部長 歯学部2期生)

奥羽大学福島県支部創立40周年記念式典が、去る5月19日(土)午後4時から郡山ビューホテルアネックスにおいて、関係者140

名余の出席を得て盛大に挙行されました。古田倫郎福島県支部長が支部の歩みと会員動向、東日本大震災・原発事故時における支部会員同士の絆と結束の報告、支部組織の将来への展望について式辞を述べました。次に、柳川忠廣日本歯科医師会副会長、海野仁福島県歯科医師会会長、清野和夫奥羽大学学長、渡邊友彦同窓会会長より祝辞を頂き、その後記念講演では私たちの同窓で同級生でもある柳川日歯副会長が、「歯科医療の今後について」と題して日本歯科医師会の取り組みについて講演されました。主な内容は以下の通りです。健康寿命の延伸のために「しっかり噛んで」「しっかり食べて」「しっかり生活する」ことが大事であり、歯科医師の果たす役割は大きく、今回の改訂で創設された新病名「口腔機能低下症」「口腔機能発達不全症」にも関わりがある。医科歯科連携では顔の見える関係からさらに「腕」の見える関係への構築であり病院歯科の充実が医療費削減につながる。高齢者の医療の確保に関する法律には、他の都道府県の区域内における診療報酬と異なる定めをすることができる動きがあり、また給付率自動調整案に対

して危惧があると警鐘を示されました。盛りだくさんの内容でしたが平易な言葉で大変分かりやすい講演でした。また学生時代硬式野球部部長であった故足立深教授との卒後の係わり合いや、浜松市と静岡市の地域性の違いや浜松の「やらまいか」の心意気についても大変面白く拝聴しました。ついで、遠藤秀樹日本歯科医師会常務理事から「平成30年度診療報酬改定について」と題して講演がなされ、点数改定までの経緯と歯科医療費の推移についての説明がありました。今後の歯科医療費は、「治療中心型(歯の形態回復)」から「治療・管理・連携型(口腔機能の維持・回復)」にシフトされ、また改定の肝についても詳細に解説していただきました。その後祝賀会が開催され、福井和徳奥羽大学歯学部成長発育歯学講座歯科矯正学教授の乾杯の発声により賑々しく催されました。

尚、会の開催・運営にあたり関係者の皆様にご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。

## 同窓生のひろば



## 野井 晃正(歯学部28期生)

同窓生の皆様におかれましては、いっそうご隆昌のことと拝察いたします。

現在は大阪の心斎橋筋にて開業をしておりますが、卒後勤務医時代は岡山県倉敷市にて働いておりました。

今年夏、新聞TVでの報道があったように、勤務先

の一つであった真備の診療所が豪雨にて水没してしまいました。かつて、東日本大震災のときに母校がめちゃくちゃになったときにも悲しい思いをしましたが、また同じ思いをしました。

お盆休みになり、災害現場である真備に行くと、街に近づくに従い悪臭が漂い、中学校のグラウンドに高く積まれた災害ゴミの山が遠くからでも確認できました。泥が固まったデコボコ道を歩いていると、車が通るたびに砂埃が起り、マスクがないと息ができませんでした。たどり着いた診療所駐車場には歯科器材やカルテの一部が散乱しており、麻酔針もありました。

診療所を早く復旧したくても、工務店さんや材料屋さんも被災しており、なかなか厳しい状況であり、補綴セットができなかった患者さんや気になる患者さんの話しをする同僚たちをみて、かける声はみつかりませんでした。

帰り道、プラモデルの聖地「エハラ」屋さんも壊滅状況となっているのを見かけました。多くのファンがおしかけ、店主に声掛けをしていました。

また、南相馬からの大学生ぐらいの年齢のボランティアの方々ともすれ違いました。なつかしい東北なまりの話声が聞こえてきました。郡山で過ごした時の記憶がよみがえり、学生時代と同じことができてたかなって考えながら大阪に戻りました。お盆明けの診療が始まり、日々診療をさせていただけることがこれほどありがたいことかと感じさせられ、治療がより一層丁寧になりました。

最近に関西でも、診療に響くような災害が頻発には起こっております。関西支部から状況確認のメールが届きます。真備のようなことが起こったら、頼れる諸先輩方や同窓生が近くにいるのだからって思え、ほっとしました。

来年度も関西支部の同窓会に参加します。皆様よろしくお願致します。

## 同窓生のひろば



及川 瞬(薬学部2期生)

同窓の先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は卒業後、茨城県にある国立病院機構の水戸医療センターという病院に勤めています。そこで救命救急センターを担当し、救急認定薬

剤師として日々活動しています。

近年、様々な地域で災害がありました。「災害」で皆様の印象が大きいものはやはり東日本大震災ではないでしょうか。私は当時学生でしたが、この地震でアパートが傾いたため退去することとなり、避難者として生活をしたこともあって強く印象に残っています。今年は昨年から続く豪雪に始まり、草津白根山噴火、大阪府北部地震、豪雨や台風、猛暑など多岐に渡ります。災害は身近なものになっているのかもしれませんが。

私は自身が被災したこともあり、災害に興味がありました。そのため入職後は、平成27年関東・東北豪雨で水害のあった地域への巡回診療をおこない、熊本地震では避難所の公衆衛生活動などをおこなってきました。現在は、日本DMAT隊員であるため、院内・院外問わずに平時から訓練など活動をおこないながら、災害に関する研修の参加やインストラクターなどで、毎月日本全国を飛び回っています。

「それはDMATの仕事ではない、とは思わず、すべては被災者のためのものである」

これは災害の研修で講師の先生が話されていたもので、私が災害時に活動する中で常に心に留めている言葉です。私は薬剤師もこのようにあるべきではないかと思っています。

薬学部が6年制となり、病棟薬剤業務実施加算が診療報酬で設置され、近年様々な認定薬剤師も増えてきました。これは保険点数にならなくても、地道に活動してきた薬剤師の先輩方の活躍により、社会から必要とされたためだと思います。「それは薬剤師の仕事ではない、とは思わず、すべては患者のためである」と思って、活動してきたのではないのでしょうか。薬があるところには出来る限り薬剤師がいることが大事なのではないかと思っています。そして今後の薬剤師の可能性を信じて、私自身自己研鑽を重ねていきたいと考えています。

## 人 事

<採用>			
菊地 和恵	看護師 病院医療部		8月1日付
<退職>			
佐久間 奈美	係長 (理事長室付)	総務部	6月30日付
成田 知史	助教	薬学部	9月30日付

## 本学のアドミッションポリシー(入学受入れの方針)

### 歯学部

本学の建学の理念は「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する」です。医療従事者は医学的知識や医療技術の修得にとどまらず、人間性と道徳観や倫理観を持って他者とのコミュニケーション能力を高め良好な人間関係を築くことが大切です。また、社会環境の変化やニーズに対応するために、自ら課題を探索して解決する能力や多職種連携に関わる知識と応用力も必要になります。さらに、人として他者を尊重し思いやる心と生涯にわたり歯科医師を貫く強い志を持ち、社会に貢献できる歯科医師を目指すことが必要となります。

歯学部では、次のような資質を備えた入学者を求めています。

#### 1. 求める人物像

1. 国民の健康の保持・増進に役立ちたいという志を持っている。
2. 生命を尊重し他者を思いやる心を持っている。
3. 地域医療を支える意識を持っている。
4. 歯科医師という職業に魅力を感じ、その仕事に携わりたいという強い希望と意欲を持っている。
5. 歯科医師として、生涯にわたって自己研鑽を続けるための強い意志を持っている。

#### 2. 入学前に身に付けていることが望まれる知識など

1. 入学後の学修に必要な基礎学力(国語、英語、数学、理科)を有している。
2. 基本的なコミュニケーション能力を発揮するための基礎的な知識・態度を有している。

#### □入試区分別アドミッションポリシー

##### ●AO入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 歯科医療を通して社会に貢献したいという強い意欲がある。
2. 将来、自らが目指す歯科医師像が明確である。

##### ●同窓特別入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 本学歯学部の教育環境を十分に理解している。
2. 将来、自らが目指す歯科医師像が明確である。

##### ●推薦入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 本学で歯科医学を学ぶことを強く希望している。
2. 歯科医療を通して社会に貢献したいという強い意欲がある。

##### ●特待生選抜入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 特に理数系科目と英語において、優れた学力水準にある。
2. 指導的立場に立って歯科医学・歯科医療を支える意識を強く持っている。

##### ●一般選抜入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに合致する入学者を求めます。

##### ●編入学試験(第2・3・4年次編入)

歯学部のアドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 歯科医師になりたいという強い希望を持っている。
2. 本学で歯科医学を学ぶことを強く希望している。
3. 歯科医療を通して社会に貢献したいという強い意欲がある。

## 薬学部

本学の建学の理念は「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する」です。薬学部では、その具現化のために薬剤師としての必要な知識と技術の修得だけにとどまらず、他者とのコミュニケーションを積極的に行うトレーニングを通し、人間性と道徳観や倫理観を育てていきます。また、進歩していく社会やニーズの変化に対応するためには、常に課題を探究し、解決するまで研鑽し続ける力をつけることが必要となります。

本学部では、高等学校等における幅広い学習を通じて、次のような資質を備えた入学者を求めています。

## 1. 求める学生像

1. 国民の健康の維持・増進に役立ちたいという志を持っている。
2. 生命を尊重し他者を思いやる心を持っている。
3. 地域医療を支える意識を持っている。
4. 薬剤師という職業に魅力を感じ、その仕事に携わりたいという強い希望と意欲を持っている。
5. 薬剤師として、生涯にわたって自己研鑽を続けるための強い意志を持っている。

## 2. 入学前に身に付けていることが望まれる知識など

1. 入学後の学修に必要な基礎学力(国語、英語、数学)を有している。
2. 高等学校までの理科3科目(物理、化学、生物)の中で1科目以上について、その内容を身に付けている。
3. 基本的なコミュニケーション能力を発揮するための基礎的な知識・態度を身に付けている。

## □入試種別アドミッションポリシー

## ●一般入試

薬学部のアドミッションポリシーに合致する入学者を求めます。

## ●AO入試

アドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 高等学校での学習に限らず、課外活動や社会活動など様々な活動に対し積極的な態度で参加している自らの活動実例を表現できる。

## ●推薦入試

アドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 高等学校で学ぶ基本的学科目、特に理数系科目について、優れた学力水準にある。
2. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組むことができる。

## ●特待生入試

アドミッションポリシーに加えて、下記の資質を有する入学者を求めます。

1. 高等学校で学ぶ基本的学科目、特に理数系科目について、優れた学力水準にある。
2. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組むことができる。
3. 将来、薬剤師として指導的立場に立って社会に貢献したいという意欲を有する。

奥羽大学報159号(通算No.284)平成30年10月3日発行  
 発行 奥羽大学  
 学報編集委員会  
 委員長 清野和夫

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1  
 電話 024 (932) 8931(代) FAX 024 (933) 7372  
 ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>  
 メールアドレス [info@ohu-u.ac.jp](mailto:info@ohu-u.ac.jp)

※「奥羽大学報」送付先変更の方は、FAXまたはメールでご一報をお願いします。

受験生の皆様、保護者の皆様へ。

# 奥羽大学で 特待生 という選択。

キミのやる気と実力を存分に活かしてほしい。  
医療人としての人生をここから始めよう。  
人間性豊かな歯科医師、薬剤師になるために。

Innovative Future

# 奥羽大学

歯学部

薬学部

最大6年間  
学費  
フルサポート

自力進学支援型

## 特待生募集!

歯学部 **30名** 薬学部 **30名**

〈お問い合わせ先 企画・広報課〉〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1  
TEL: 024-932-9055 FAX: 024-933-7372 E-mail: info@ohu-u.ac.jp

[www.ohu-u.ac.jp](http://www.ohu-u.ac.jp)